



ブリスを訪れて相談をする参加者たち  
(左3人) 〓 四日市市民交流会館で

## 外国人生活の困り事相談

### 四日市 8団体 がブリス 132人参加

四日市市民交流会館で1日、「外国人のための合同相談会」があり、ブラジルや中国などからの132人が、生活の困り事を専門機関に相談した。市国際交流センターや三重労働局労働基準部など8団体がブリスを出した。

外国人の暮らしを支援する同市のNPO法人「愛伝舎」が主催。参加者は必要に応じてブリスを訪れ、労働条件の確認の仕方や在留資格について説明を受けた。相談したりしていた。

全国的に外国人の海難事故が増えていることから四日市海上保安部による「海

の安全について」と題した講演もあり、「日本はどこでも泳いでいいわけではない」と遊泳禁止の場所があることや「警報が出たら津波が来る可能性があり、すぐ高台に逃げるように」と伝えた。

インドネシアから来日して6年目のバイハキさん(29)は「ネットでは『特定技能2号は家族と暮らせない』といったうそが出回っている。確かな情報を知れて安心した」と話した。

(轟野乃子)